

# 早大生の課外活動



## ボランティア活動

えーっ！ワセダの学生って、まだ4人に1人しかボランティア活動を経験してないの?! ボランティアサークルへの参加も少ないし。それにボランティアって言ったら「身体障害者支援」だけというのはちょっと頭が硬いよね。

## 課外活動に対する大学からの支援要望

早稲田祭はやっぱりやりたい！ 部室、練習室などの活動場所も提供してほしいけど、ジャンルによってサポートして欲しいことが違うんだ。

## サークル活動への参加

8割以上が1度はワセダのサークルで活動を体験して、ワセダ学生文化を支えています。男性はスポーツ系に集中、女性はさまざまな分野で活動してるね。



## サークル活動と学業の両立

8割以上の人が週2回(6時間)以内のサークル活動なので、勉強に支障があるなんてことはないね。でも、5%の人が「サークルばかりで勉強は...」って言うんだけど君は大丈夫？

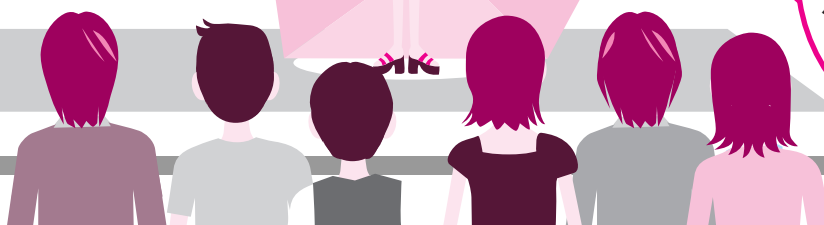
## 早稲田祭

9割弱の学生が早稲田祭を開催したいって言うけど、情緒的なもの。サークル活動の成果発表の場というよりは、「心のよりどころ」「早大生としての一体感」という学園祭がしたいんだよね。



## サークル活動と学年の関係

サークル活動している学生が1年生では8割以上だったのが、どんどん減って4年生になるとほぼ半減。それはそのサークルが「自分に合わなかった」からで「事情があって仕方なく」なんてことはないみたい。

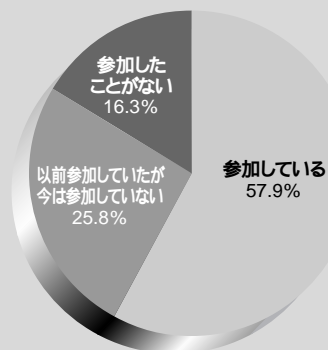


## (1) サークル活動への参加

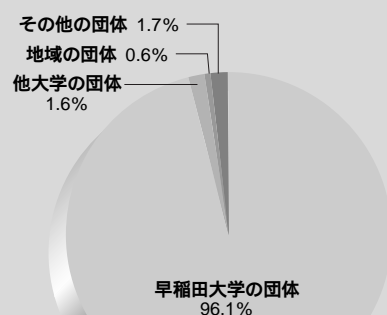
早稲田大学はサークル活動が日本一盛んであるとの呼び声が高く、サークルの数も大学公認・非公認を合わせて約1,800にのぼると言われています。サークル活動への参加の有無については、「参加している」(57.9%)、「以前参加していたが今は参加していない」(25.8%)と1度でもサークル活動に関わった学生は実に83.7%にも達しています。しかもそのサークルは「早稲田大学の団体」であるものが96.1%ですから、これまで多くの先輩たちが営々と築き上げてきた早稲田大学のサークル文化に、大多数の学生が触れる機会を持ち、発展させていると考えることができます。まさに「早稲田学生文化」はすべての学生によって支えられていると言えるでしょう。

サークル活動のジャンルについて見てみると、男女ともにスポーツ系が最も多くなっており(男性36.5%、女性27.0%)、ついでマスコミ系(男性23.7%、女性23.8%)となっています。

現在、部・サークル活動(学内外不問)に参加していますか?

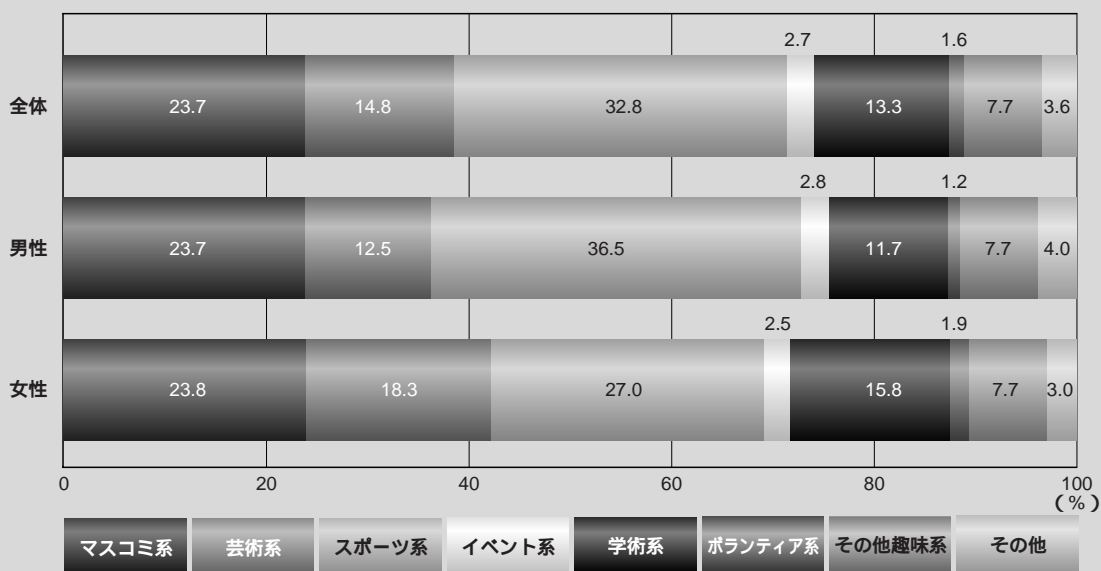


どのような団体ですか?



男女の違いを見てみると、男性はスポーツ系とマスコミ系を合わせて60.0%を超えていて、この2つに偏っているのに対して、女性は芸術系(18.3%)や学術系(15.8%)へのサークル活動参加も多く見られ、比較的さまざまなジャンルに散らばっているという特徴があると考えられます。

どんなジャンルですか? (男女別)



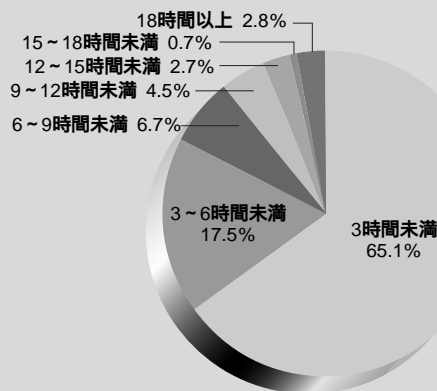
## (2) サークル活動と学業の両立

さて、活発なサークル活動に参加することで1つ気になることは、「勉強と両立できるのだろうか」という問題です。サークルに関する「授業期間中の週平均活動時間」を見ると、「3時間未満」(65.1%)、「3~6時間未満」(17.5%)となっており、「6時間未満」を合計すると82.6%になります。すなわち大多数の学生は1回3時間のサークル活動とすると、週1日ないし2日のサークル活動に参加しているということになるでしょう。

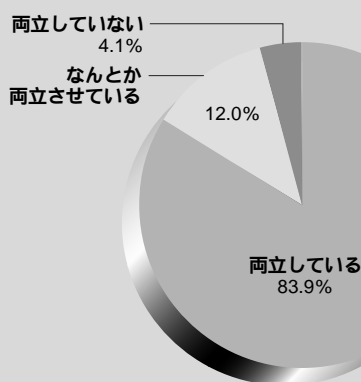
この程度の活動時間であるからでしょうか、サークル活動と学業が両立しているかどうかという質問に対しては、「両立している」(83.9%)、「何とか両立させている」(12.0%)と、ほとんどの学生が、サークル活動と学業に対して、調和的に取り組んでいると考えることができます。

しかし、学業と「両立していない」学生も4.1%存在することも事実です。活動時間との関係を見てみると、おそらく週15時間、すなわち1回3時間として週に5日以上サークル活動となると、学業に大きな影響を与えることになる可能性が高いと考えられます。

授業期間中の週平均活動時間を教えてください



部・サークル活動と学業は両立していますか？



## (3) サークル活動と学年の関係

ところで、学年が上がっていくにつれて、学生のサークル活動への関わりはどのように変化していくのでしょうか。1年生は81.1%の学生がサークル活動に「参加」しています。ところが、2年生では67.2%、3年生では57.1%、4年生では47.7%と減少し、1年生でサークル活動に参加した者のうち、約半数が途中でやめてしまうという結果になっています。

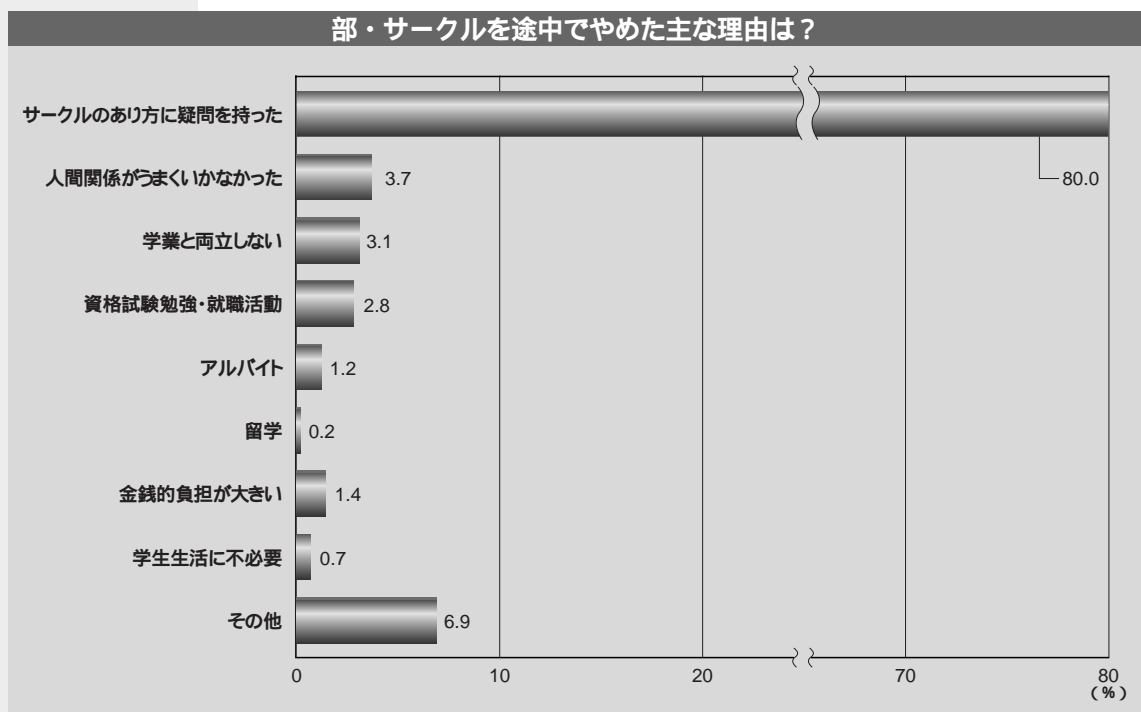
現在、部・サークル活動(学内外不問)に参加していますか？(学年別)



もちろん、4年生になると引退するというサークルもありますから、その分を多少差し引かなければなりません。1年生でせっかく希望を持ってサークル活動に参加したにもかかわらず、最後まで続けることができなかつた学生が約半数もいるであろうと考えられることは残念なことです。その「やめた理由」については、「サークルのあり方に疑問を持った」が80.0%と圧倒的に多く、「学業と両立しない」は3.1%と微々たる数字に過ぎません。



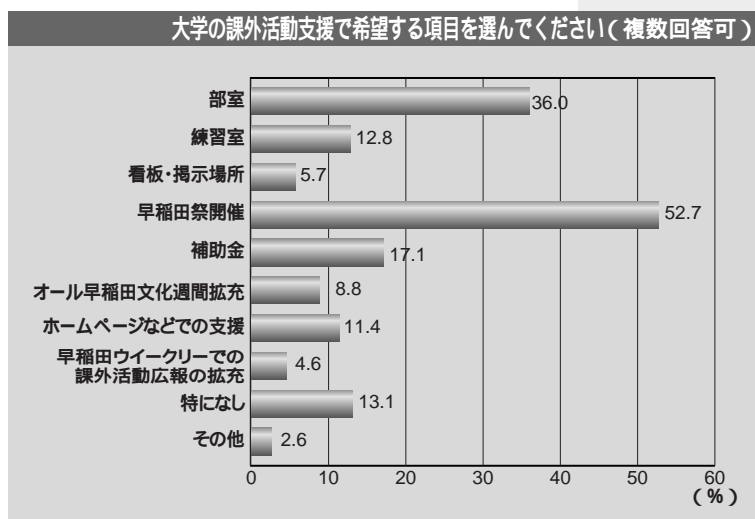
つまり「サークル活動を続けたいけれど、学業や金銭的理由でやむを得ずサークル活動をあきらめざるを得なかつた」というわけではなく、「自分にはそのサークルが合わなかつた」ことがサークルをやめるほとんどの理由であると考えられるでしょう。



## (4) 課外活動に対する大学からの支援要望

大学からの課外活動支援策としては、どんな内容が望まれているのでしょうか。単純集計で最も多いのは「早稲田祭の開催」(52.7%)、ついで「部室」(36.0%)、「補助金」(17.1%)、「特になし」(13.1%)、「練習室」(12.8%)、「ホームページなどでの支援」(11.4%)となっています。サークルとしては課外活動活動の一環として「早稲田祭」を、そして活動場所として「部室」「練習室」を確保したいというのが、大学からの支援内容として主に望んでいるものと考えられるでしょう。また時代を反映して課外活動の情報発信および情報収集チャネルである「ホームページ」に関する支援要望も注目に値するものと言えます。

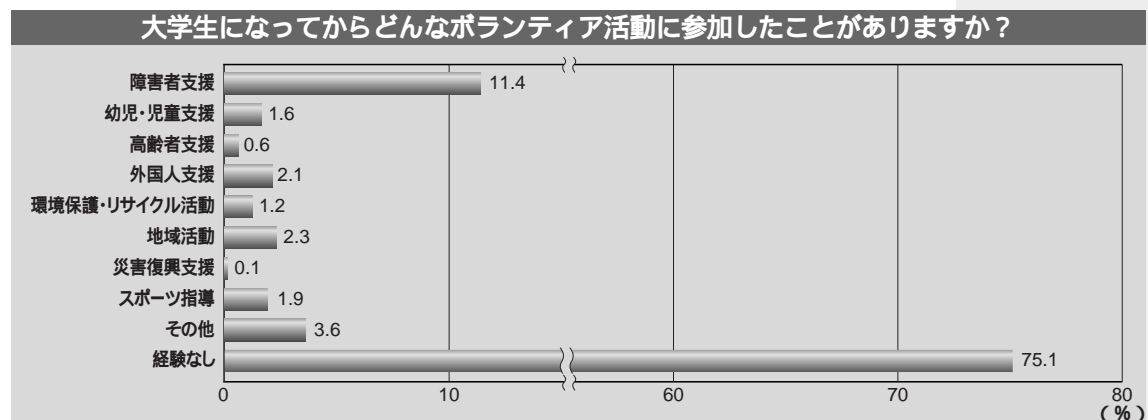
このことをサークルのジャンル別にまとめましょう。(早稲田祭開催に関しては(6)の項で取り上げます)。「芸術系」では「部室」(50.8%)、「練習室」(29.5%)が他ジャンルのサークルよりも高い値となっています。また「学術系」でも「部室」が40.3%となっています。こうしたジャンルのサークルでは特に活動場所の支援を求めているものと考えられます。一方「スポーツ系」では「補助金」が20.1%と他ジャンルよりも高くなっています。「部室」はサークル員の連絡場所として必要なものの、スポーツ活動を行うために外部施設を借りる資金の補助を必要としているのだと思われます。また、「マスコミ系」のサークルでは「特になし」が26.1%と際立っているのが特徴的です。大学の課外活動支援も今後はジャンル別にキメ細かく対応していくことが必要になるのではないのでしょうか。



## (5) ボランティア活動

早稲田大学の学生はボランティア活動に対してどのように取り組んでいるのでしょうか。残念ながらまだ多くの学生が積極的に取り組んでいるという結果にはなっていません。単純集計で「経験なし」が75.1%ですが、この結果は男女別、学年別に眺めても特に差はありませんでした。

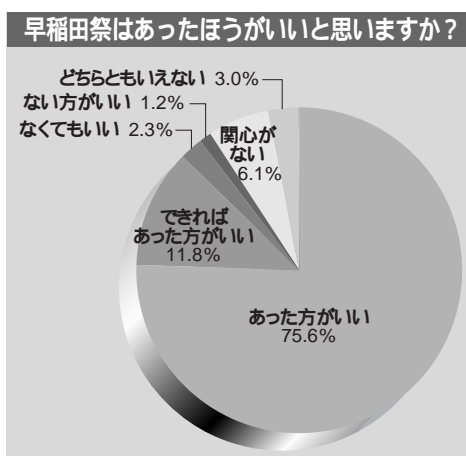
ボランティア活動への参加がまだ活発でないという結果は「(1)サークル活動への参加」の項で掲載したサークルのジャンルを示すグラフからも分かります。「ボランティア系」サークルへの参加者はわずかに1.5%であり、他の「スポーツ系」(32.8%)、「マスコミ系」(23.7%)、「芸術系」(14.8%)などといったサークルへの参加者に比べると微々たるものと言わざるを得ません。ボランティア系サークルが学生の自主的なボランティア活動のリーダーシップ的な役割を担うであろうことを考えれば、こうしたサークルの発展も望まれるでしょう。



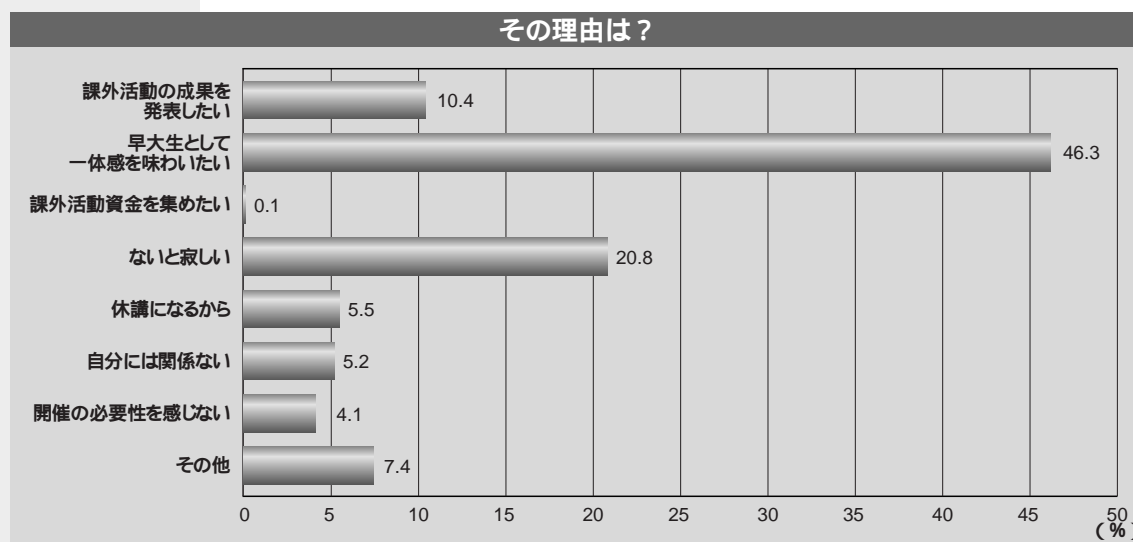
ところでボランティア活動を行っている場合、どのようなボランティア内容であるかを見てみると、「障害者支援」(11.4%)が最も多く、その他には「地域活動」(2.3%)、「外国人支援」(2.1%)、「スポーツ指導」(1.9%)などとなっています。このようにボランティア活動というと、まだまだ「障害者支援」が中心であるということが分かります。これはボランティア活動の場としては「障害者支援」が多いということと、学生の意識の中に「ボランティア活動」イコール「障害者支援」というものがあるためかもしれません。ボランティア活動の対象は幅広いということも今後学生に認識してもらわなければならないでしょう。

## (6) 早稲田祭

1997年以降行われていない早稲田祭開催の希望については、「あった方がいい」(75.6%)、「できればあった方がいい」(11.8%)と、開催に肯定的な意見が88.4%を占め、学生の大多数が早稲田祭の開催を希望していることがうかがえます。また、「大学に対する要望」を自由回答形式で尋ねたところ、「課外活動」に関する記述119項目のうち、実に77項目が「早稲田祭(または学園祭)の開催を求める」ものであったこと、同様に「大学への不満」についても「課外活動」に関する記述66項目のうち16項目が「早稲田祭(または学園祭)がない」ことを挙げていることから、学生の学園祭の開催希望が強く感じ取れます。



学生が、早稲田祭開催を望む理由としては、「早大生としての一体感を味わいたい」(46.2%)、「ないと寂しい」(20.8%)といった、どちらかと言えば情緒的な理由が多くなっています。それに対して、「課外活動の成果を発表したい」(10.4%)、「課外活動資金を集めたい」(0.1%)といった目的が明確な開催希望理由は少数に留まっています。つまり、すでに早稲田祭を実際に経験したことのない現在の学生にとって早稲田祭とは、自分が早稲田の学生であるというアイデンティティを確認する場というイメージが強いのではないのでしょうか。



(4)で取り上げた大学からの課外活動支援策として希望する「早稲田祭開催」は52.7%(複数回答)とやはりこちらが高かったわけですが、サークルのジャンルによって多少その違いが出ています。「早稲田祭開催」を最も求めているのは「イベント系」サークル(75.0%)で活動する学生ですが、こうしたサークルでは早稲田祭のようなイベントを企画・運営すること自体が活動そのものですから、この結果は容易に理解できます。「スポーツ系」サークルの学生も「早稲田祭開催」の希望が多い(59.4%)傾向にありますが、逆に「芸術系」サークルの学生は43.9%と全体よりも低い傾向にあります。